

枝の再開通を認めたにもかかわらず、腎シンチグラフィでは、梗塞部位の RI 分布は認められず、腎機能上改善がなかったものと思われた。以上より、ウロキナーゼ局所動注後、腎動脈枝の再開通を認めた症例においても、梗塞部腎機能の改善の有無を評価する上で、腎シンチグラフィの必要性が示唆された。

16. SPECT 像に影響を与えた機械的問題について

高松 俊道 渡辺 潤二 神宮司公二
依田 一重 石井 勝巳 中沢 圭治
松林 隆 (北里大病院・放部・核)

現在の核医学において、SPECT 診断はルーチン検査として定着し、その有用性は高く評価されている。しかし、定量性に関しては、多くの問題点を残している。今回、われわれはカメラ購入の際に、コリメータ不良によるカメラのユニフォミティ低下を体験した。カメラのユニフォミティは、SPECT の定量性に影響を与えるファクターの一つであり、その管理によっては、SPECT 診断の信頼性が大きく左右される。その意味からもカメラのユニフォミティと SPECT の関係を知ることは、管理上重要と考える。そこで数種類の吸収体をコリメータ表面に置き、カメラのユニフォミティをくずし、SPECT 像を得るファントム実験を試み、検討した

17. WHO スタンダードで規準化された LH, FSH ラジオアッセイキットの評価

小林 久江 新井 洋子 (群馬大・中放・核)
富吉 勝美 井上登美夫 佐々木康人
(同・核)
伊吹 令人 (同・婦人)

下垂体性国際標準品, 1st IRP-LH (68/40), 2nd IRP-HPG (78/549) とモノクローナル抗体を用いた, IRMA Kit (スパック-S-LH キット, スパック-S-FSH キット) を検討した。

1. キットの性能は、精度、再現性、希釈回収試験とも良好であった。
2. 旧キット (LH キット「第一」、FSH キット「第一」) の測定値との相関は良く (LH $r=0.97$, FSH $r=$

0.99), 新キットの測定値は、旧キットに対し、LH 約 30%, FSH 約 90% であった。

3. 成人男子健常者の値は、LH 1.3~10.3 mIU/ml, FSH 3.1~13.3 mIU/ml であった。

4. 本キットによる測定値は、成人女子の月経周期性変動、閉経後の変化、原発性性腺障害、下垂体障害を良く反映した。

18. non-thyroidal illness における血中 Free T₄ 濃度測定法の検討

佐藤 龍次 伴 良雄 原 秀雄
九島 健二 長倉 穂積 海原 正宏
(昭和大学・三内)

NTI の血中 FT₄ 値を 4 種のキットで検討した。対象は健常者 (N) 65 例、バセドウ病 (G) 16 例、甲低症 11 例、橋本病 21 例、TBG 増多および減少症 19 例、正常妊婦 319 例、肝疾患 41 例、肺炎 7 例、脳梗塞 11 例、心疾患 15 例、糖尿病 7 例、腎疾患 3 例。方法: Amerlex M (A), RIA-gnost (R), DPC (D), EIKEN (E)。結果: いずれも再現性は 7% 以下、E では HCG と 5% の交叉性がみられた。A, D はアルブミンの影響を受けた。いずれもオレイン酸および血中脂質の影響はなかった。G では A, D に比し、R, E は高値で、他の甲状腺疾患、TBG 異常者および N では、キットによる差はなかった。妊婦は、A, D 後期で低値、R は中、後期で低値、E は初期に高値を示した。A, D は低アルブミン血症で低値、E は肝疾患で高値を示し、IgG の影響が示唆された。R では肺炎で高値を示した。NTI の血中 FT₄ 値は、低アルブミン血症、肝疾患、肺炎などで影響を受け、キットの特徴を熟知する必要がある